

委

23-67

第5回ロケット打上げ 実験計画書

(昭和47年2月期)

昭和46年12月

宇宙開発事業団

第 5 回 ロケット 打上げ 実験 計画

第 5 回 ロケット 打上げ 実験 計画 の 概要 は、次 の と お り で あ る。

1. 打上げ 実施 機関

宇宙 開発 事業 団

東京 都 港区 浜松 町 2 丁 目 4 番 地 1 号

世界 貿易 センター ビル

理事 長 島 秀 雄

2. 打上げ 場所

宇宙 開発 事業 団 種子 島 宇宙 センター

鹿児島 県 熊毛 郡 南種子 町 大字 基永 字 宇津

東 経 130° 57' 55"

北 緯 30° 22' 20"

3. 打上げ 期間

昭和 47 年 2 月 1 日 から 2 月 8 日 までの 8 日間

4. 打上げ 実施 責任 者

副 理 事 長 松 浦 陽 恵

(代理) 理 事 高 田 茂 俊

5. 渉外 関係 責任 者

理 事 西 原 林 之 助

6 ロケットの機種と機数

MT-135P型T-1, 2号機およびJCR型7号機の計3機である。

7 実験の目的

MT-135P型T-1, 2号機

MT-135P型ロケットは、人工衛星打上げにあたって必要な上層の気象データを観測するための1段式固体ロケットである。本1、2号機は、種子島上空の風向・風速および気温の観測を目的とする。

JCR型7号機

JCR型ロケットは、人工衛星打上げ用ロケットに用いる誘導制御技術を開発するための2段式固体ロケットである。

本7号機は、ガスジェット装置による制御試験を行ない、ガスジェット装置の制御特性等を確認するとともにNロケット搭載用のPCM-PM方式によるテレメータおよびSバンドコマンドの機能確認もあわせて行なうことを目的とする。

8 打上げ予定日時

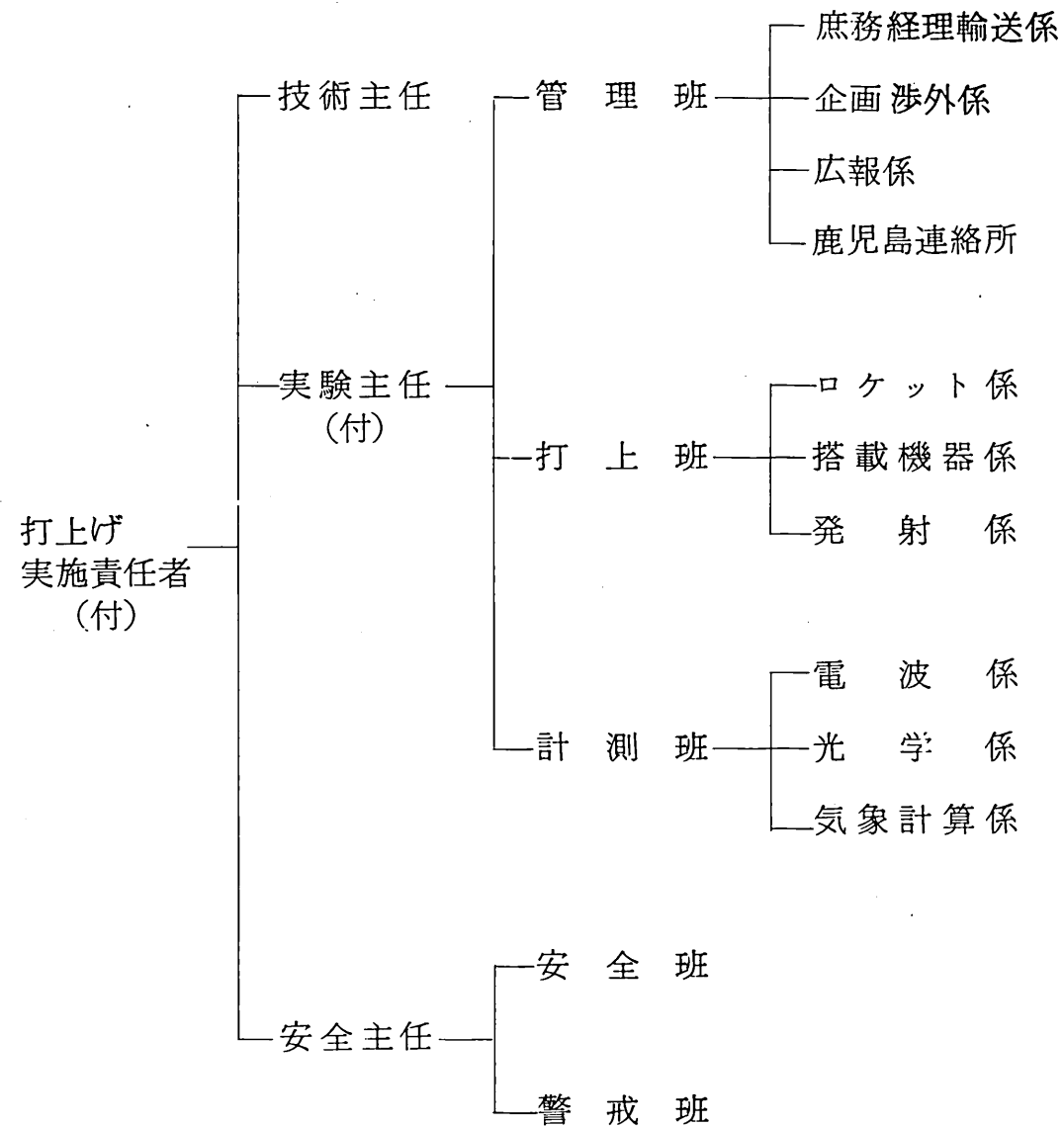
機 種	打上げ予定日	海面落下時間帯	延期する場合の期間 および海面落下時間帯
MT-135P型T-1号機	2月1日(火)	10:30~11:00	2月1日(火)~2月8日(火) 15:30~16:00 10:30~11:00
MT-135P型T-2号機	2月1日(火)	15:30~16:00	2月2日(水)~2月8日(火) 10:30~11:00 15:30~16:00
JCR型7号機	2月4日(金)	15:30~16:00	2月5日(土)~2月8日(火) 10:30~11:00 15:30~16:00

打上げ予定日に天候その他の都合によって打上げが出来ないときは、「延期する場合の期間および海面落下時間帯」の欄の範囲内で延期する。

なお、この場合他機種のロケットを同一日に打ち上げることはない。変更の理由が天候によるときは、当日できるだけ早く報知する。また、その他の都合によるときは、不測の障害にもとづく場合を除き少なくとも前日中に報知する手段を講ずる。

9. 打上げ組織

打上げの組織については、下表に示すとおりである。



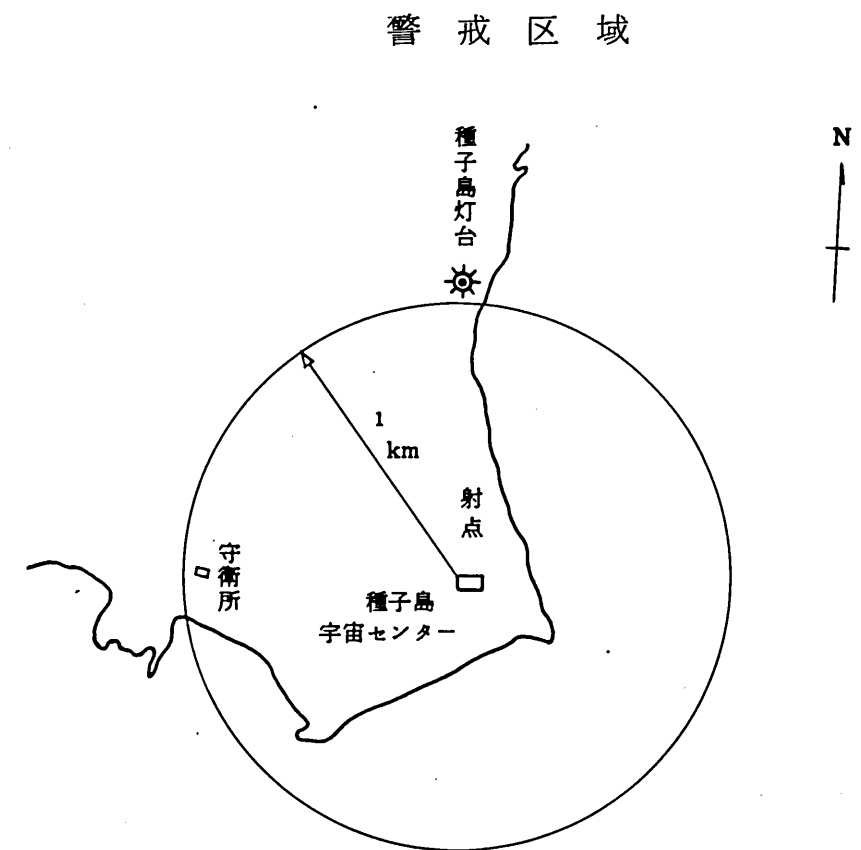
10. 安全警戒

安全確保を重視し、次の要領により警戒を行なう。

1) 警戒の範囲

イ. 射場および沿岸警戒区域を下図に示す。

ロ. 海上については、ロケット落下予想区域として別図に示す。



射点を中心とし、半径1 Km 以内を警戒区域とする。

2) 陸上の警戒

射場附近の陸上の警戒については、鹿児島県警察本部に依頼する。

射場内の警戒は宇宙開発事業団があたる。ロケット打上げに当っては、警戒区域内に一般の人が立ち入らないよう立札等の表示をする。

なお、ロケット等の輸送にあたっては別途輸送計画書にしたがって安全の確保に留意しつつ実施し、警戒については鹿児島県警察本部に依頼する。

3) 海上の警戒

海上のロケット落下予想区域の警戒については、第十管区海上保安本部に依頼するが、射場附近の沿岸の警戒については、宇宙開発事業団が担当する。

4) 航空機に対する警戒

航空機に対する警戒については、大阪航空局鹿児島空港事務所および大阪航空局種子島空港出張所に依頼する。

5) 射場における警戒表示方法

- イ. 実験当日は、射場内に黄旗を掲げる。
- ロ. 打上げ30分前に赤旗を掲げる。
- ハ. 打上げ2分前に花火を1発あげる。
- ニ. 各ロケット打上げ終了後は、花火を2発あげるとともに、赤旗をおろす。
- ホ. 非常事態あるいは異常事態発生の際は、サイレンを断続的に吹鳴する。これを解除する際は、サイレンを15秒間吹鳴する。

11. 通信連絡系

ロケット打上げに際しては、第十管区海上保安本部鹿児島海上保安部および大阪航空局種子島空港出張所に連絡員を派遣するとともに、射場との間に連絡専用回線を開設し、緊密な連絡にあたる。主な通信連絡先は別表に示す。

12. リハーサル(予行演習)

次の予定でリハーサルを実施する。

- 1) MT-135P型T-1、2号機 1月31日(月)
- 2) JCR型7号機 2月3日(木)

なお天候その他の都合により、リハーサルの予定を変更することがある。

13. 報道関係

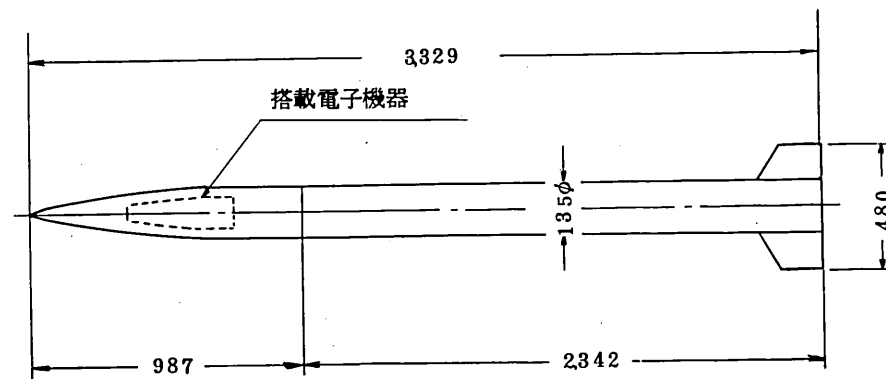
- 1) 報道関係者には、安全確保に留意しつつ、ロケットならびに射場内の施設および設備を公開し、取材の便宜をはかる。
- 2) ロケットの打上げ結果については、打上げ終了後、実験主任から概略の発表を行なう。

14. ロケットの性能、諸元

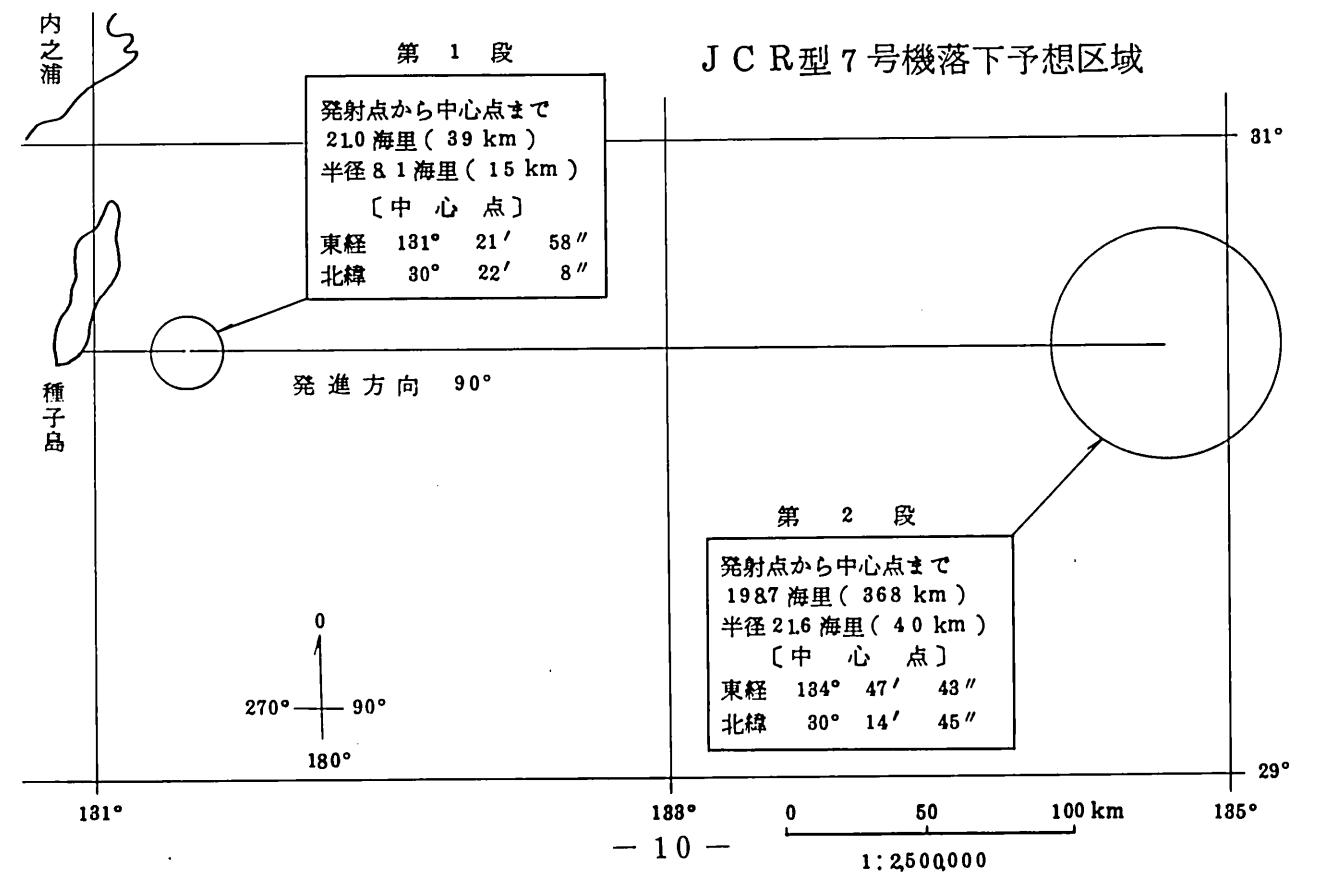
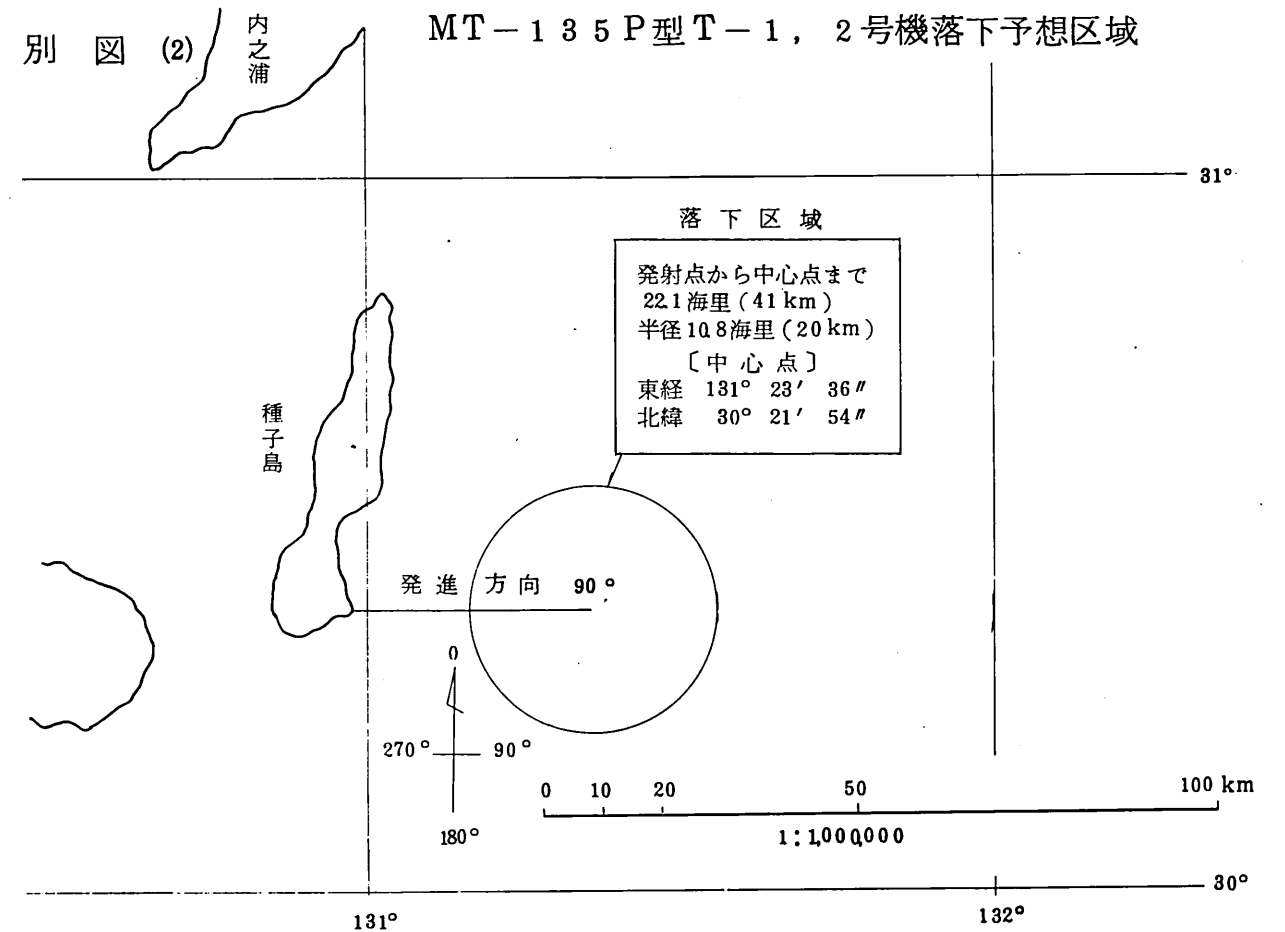
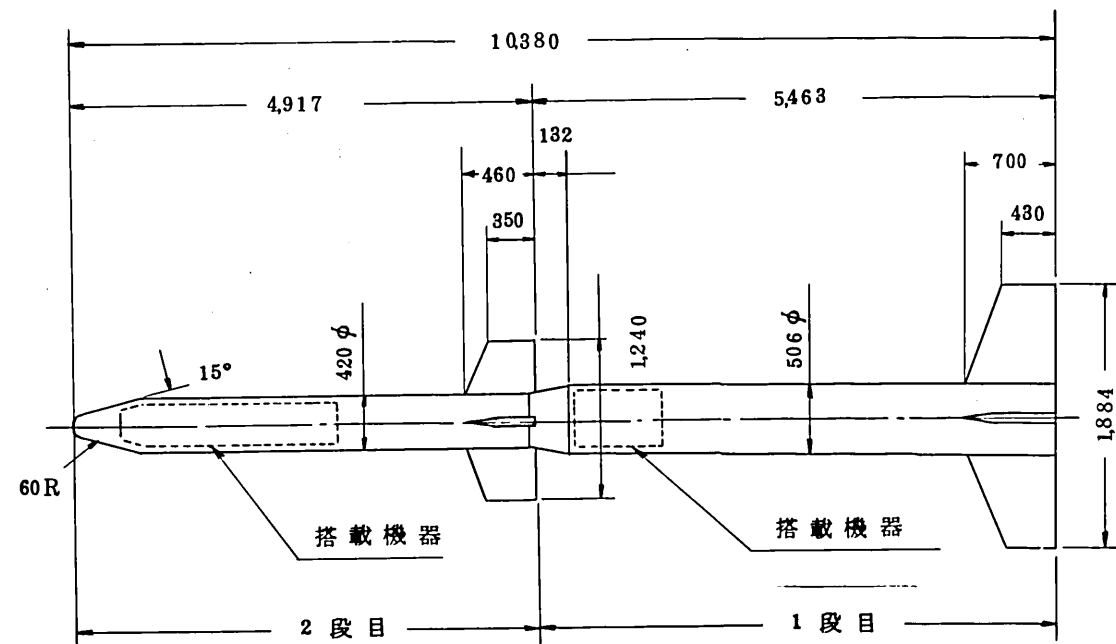
諸元	機 種	J C R 7号機	
		1 段 目	2 段 目
形 式	固 体	固 体	固 体
全 長 (mm)	3329	10380	
		5463	4917
外 径 (mm)	135	506	420
全 重 量 (ton)	0.07	222	
推 薬 重 量 (kg)	375	938	322
平 均 推 力 (ton)	0.8	135	5.5
燃 焼 秒 時 (sec)	10.5	21	18
発 射 高 度 角 (°)	80	75	
発 射 方 位 角 (°)	90	90	
到 達 高 度 (km)	52	31	150
水平飛しょう距離(km)	41	39	368
搭 載 機 器	テレメータトランス ポンダ 温度計	ジャイロ機器、テレメータ送信器 レーダトランスポンダ、コマンド受信器 ガスジェット制御装置	

15 ロケットの概要

MT-135P型T-1, 2号機(30分の1)

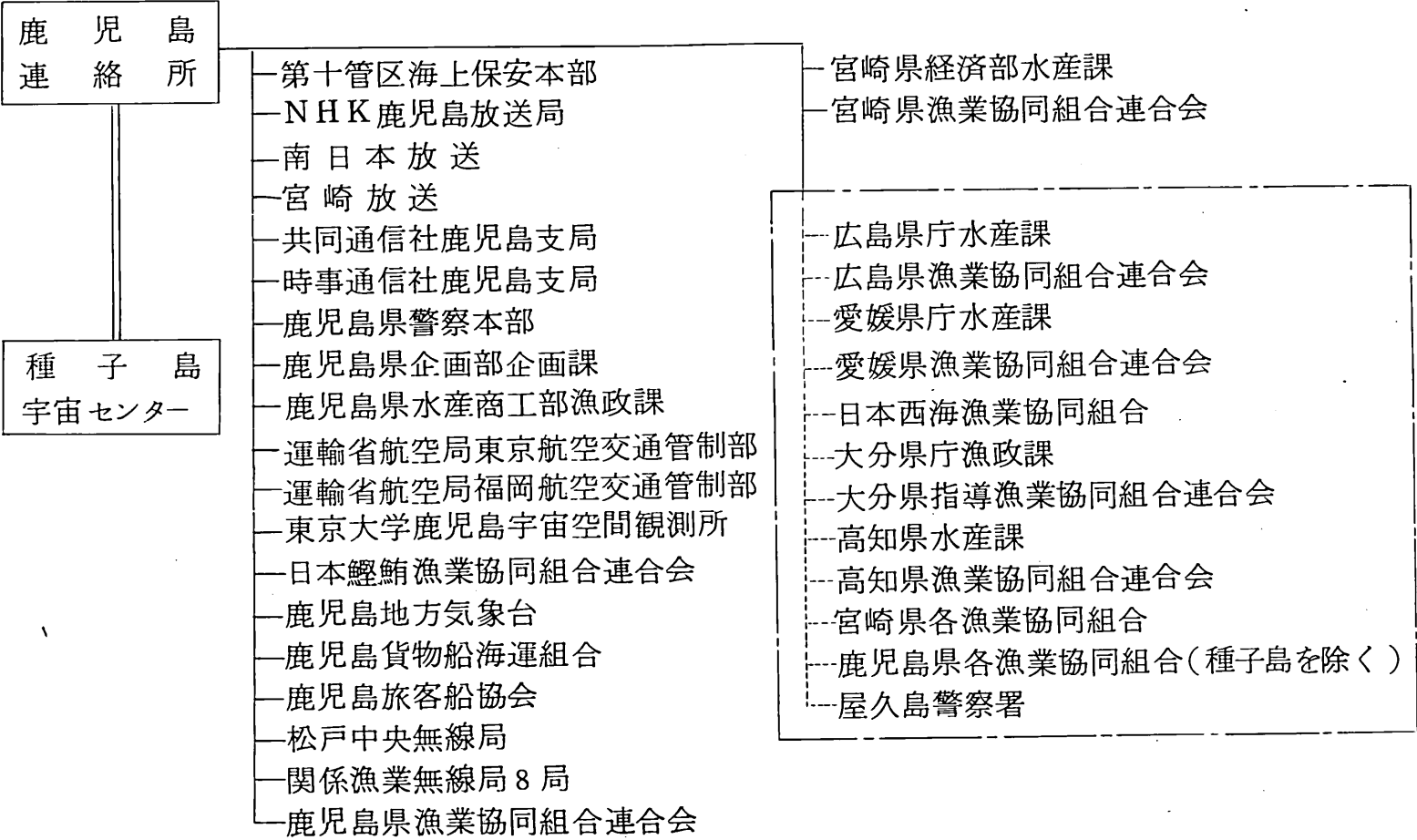


JCR型7号機(100分の1)



別 表 通 信 連 絡 先 （ そ の 1 ）

— 11 —



通 信 連 絡 先 （ そ の 2 種 子 島 関 係 ）

— 12 —

